NEC

NEC Expresss5800サーバ・ワークステーション
Express5800シリーズ

エクスプレス通報サービス

インストレーションガイド

ONL-2070aN-COMMON-011-99-0110

商標について

ESMPROは日本電気株式会社の登録商標です。
EXPRESSBUILDERは日本電気株式会社の商標です。
Microsoft、Windows、Windows NTは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

Windows 2000はMicrosoft® Windows® 2000 ServerおよびMicrosoft® Windows 2000® Advanced Server、Microsoft® Windows® 2000 Professionalの略称です。
Windows NTはMicrosoft® Windows NT® Server network operating system version 3.51/4.0およびMicrosoft® Windows NT® Workstation network operating system version 3.51/4.0の略称です。

サンプルアプリケーションで使用している名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。

ご注意

（1） 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
（2） 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
（3） NECの許可なく複製・改変などを行うことはできません。
（4） 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
（5） 運用した結果の影響については（4）項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

はじめに

このたびは、NECのExpress5800シリーズサーバ・ワークステーションをお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

Expressシリーズ本体の持つ機能を最大限に引き出すためにも、ご使用になる前に本書をよくお読みになり、ユーティリティを正しくお使いになるようお願い申し上げます。

ソフトウェアご使用の条件

添付のCD-ROM内のソフトウェアを使用するにあたって、添付の「ソフトウェアのご使用条件」をお読みになり、その内容についてご確認ならびにご承諾ください。

ユーザーサポートについて

ソフトウェアに関する不明点や問い合わせは別冊の「ユーザーズガイド」に記載されている保守サービスセンターへご連絡ください。また、

http://www.express.nec.co.jp/

Express5800『58番街』：製品情報、Q&Aなど最新Express情報満載！

http://www.fielding.co.jp/

NECフィールディング（株）ホームページ：メンテナンス、ソリューション、用品、施設工事などの情報をご紹介しています。

エクスプレス通報サービスについて

本書は、エクスプレス通報サービスを導入するにあたり必要となるセットアップ手順について記述しています。

エクスプレス通報サービスをお使いになる前に、必ずお読みください。

このエクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報（予防保守情報含む）を電子メールやモデム経由で保守センタに自動通報することができます。本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。
また、複数のサーバからの通報を１台のマネージャに転送することによりマネージャ経由によるエクスプレス通報をすることができます。

また、お客様のサーバ上で動作するエクスプレス通報サービスと、クライアント上で動作するシステム監視サービス（DMITOOL）を連携させることでシステムを安定に稼働させることができる、クライアント／サーバ型の保守サービス（PC通報連携機能）を提供しています。詳細については、「1.3 PC通報連携機能」をご覧ください。

1 セットアップの準備

エクスプレス通報サービスをご使用になるためには、まず、お手持ちのサーバにエクスプレス通報サービスをセットアップしていただく必要があります。
セットアップとは、統合セットアップにあるエクスプレス通報サービスのプログラムを、実行できる形式にして固定ディスクにコピーすることです。
セットアップの方法は、「２　セットアップの方法」で詳しく説明しています。

1.1 エクスプレス通報サービスのセットアップ環境

エクスプレス通報サービスをセットアップするためには、以下の環境が必要です。

１）ハードウエア

・メモリ　　18.0MB以上
・ハードディスクの空き容量　　30.0MB以上
・モデム
　ダイヤルアップ経由の通報を使用する場合、モデムが必要です。ダイヤルアップ経由のエクスプレス通報で使用するモデムはNECフィールディングにご相談ください。
・メールサーバ
　電子メール経由の通報を使用する場合、SMTPをサポートしているメールサーバが必要です。

２）ソフトウェア

・Microsoft® Windows® 2000日本語版（Server/Advanced Server/Professional）
　Microsoft® Windows NT® operating system Version 4.0日本語版
　(Server/Workstation)
・ESMPRO/ServerAgent Ver3.1以降
・マネージャ経由を使用する場合は以下の環境が必要です。
　サーバ側：ESMPRO/ServerAgent Ver3.4以降(EXPRESSBUILDER REV.040は含まない)
　マネージャ側：ESMPRO/ServerManager Ver3.4以降
　　　　　　+ ESMPRO/AlertManager Ver3.4以降

1.2 セットアップに必要な契約

セットアップを行うには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

1）本体装置のＨ／Ｗ保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約
本体装置のＨ／Ｗ保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。
契約内容の詳細については、購入された販売店にお問い合わせください。

2）通報開局ＦＤ
契約後送付される通報開局ＦＤが必要となります。
まだ到着していない場合、通報開局ＦＤが到着してから、セットアップを行ってください。

1.3 PC通報連携機能

PC通報連携機能は、クライアントで発生した障害の情報を電子メールやモデム経由で保守センタに自動通報するサービスのことです。このサービスを使用することにより、クライアントの障害を事前に察知したり、障害発生時、すみやかに保守することができます。

[重要] PC通報連携機能を使用するには、エクスプレス通報サービス バージョン3.2 以降がインストールされていなければなりなせん。

PC通報連携機能のセットアップについては、「3 クライアント監視機能のセットアップ方法」を参照してください。

また、別途PC通報連携機能での契約が必要となりますので、ご購入になった販売店または保守員にお問い合わせください。

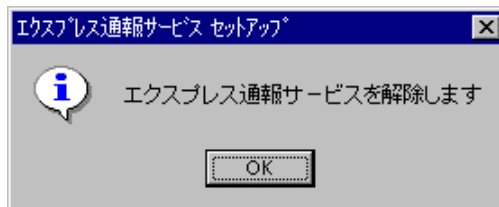
2 セットアップの方法

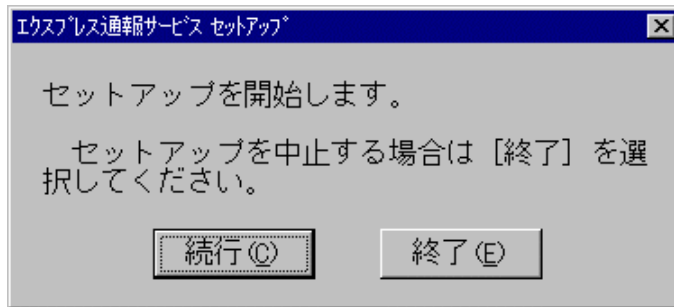
エクスプレス通報サービスの動作には、ESMPRO/ServerAgent(以下　エージェントと表記します)の設定が必要です。

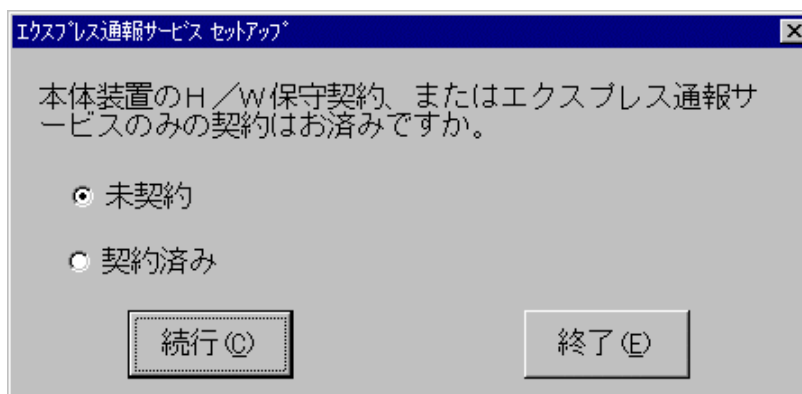
エージェントの設定については、「ESMPRO/ServerManager,ServerAgent Ver3.2 Package ユーザーズガイド」およびオンラインヘルプを参照してください。

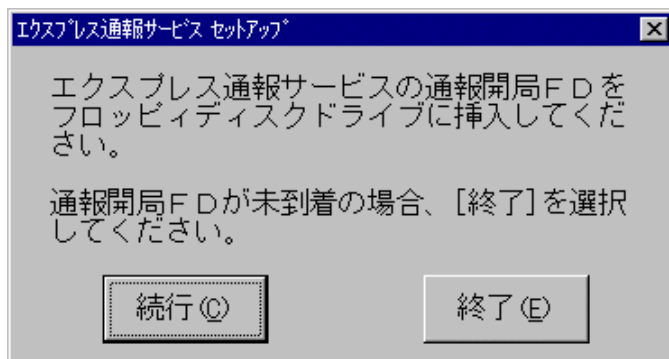
2.1 エクスプレス通報サービスのセットアップ

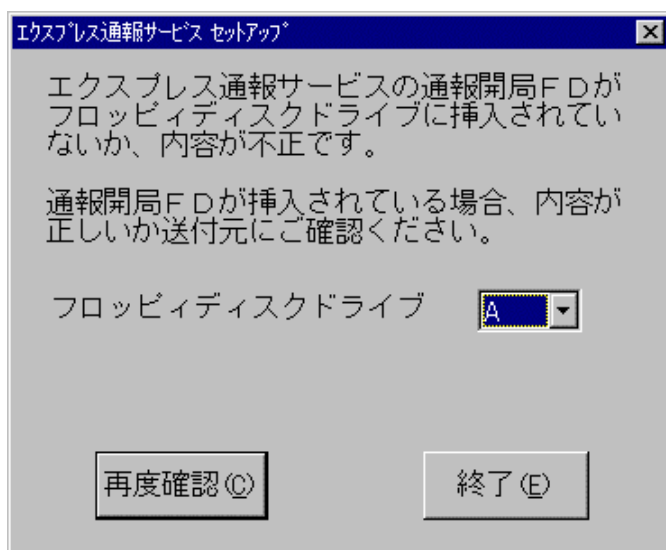
以下の手順に従ってセットアップを行います。

[注意] インストールの途中で[終了]ボタンをクリックして終了すると、以下のメッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックして、インストール途中で設定された内容が解除されるまで待ってください。

1）CD-ROM媒体を、CD-ROMドライブにセットします。
2）統合セットアップを起動します。
以下のダイアログボックスが表示されます。

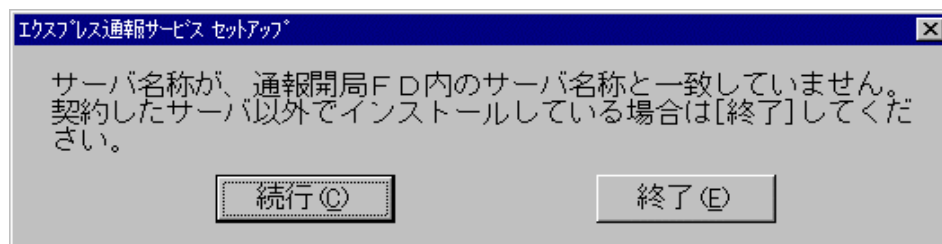
3）[関連ユーティリティのメニューへ]を選択してください。
[関連ユーティリティメニュー]が表示されます。
4）[エクスプレス通報サービス]を選択してください。
以下のダイアログボックスが表示されます。

5）[続行]を選択してください。
以下のダイアログボックスが表示され、インストールが開始されます。
インストールは、1.環境の調査、2.サービスの停止、3.ファイルのコピー、4.レジストリ情報の設定、5.サービス情報の登録、6.環境情報の設定の順で行われます。

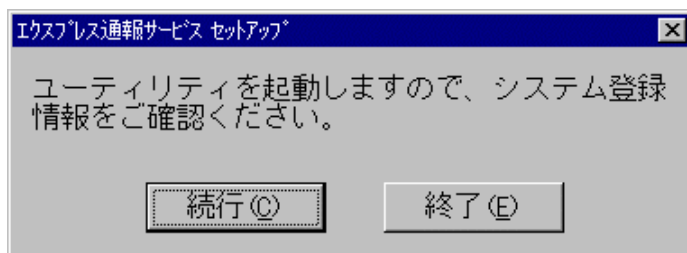
6）エクスプレス通報サービスの概要が表示されますので、[続行]ボタンをクリックすると以下のダイアログボックスが表示されます。

7）契約がお済みでない場合、[未契約]を選択してから[続行]ボタンをクリックして
セットアップを終了してください。

8）[契約済み]を選択して[続行]ボタンをクリックしてください。
以下のダイアログボックスが表示されます。

9）通報開局ＦＤをフロッピィディスクドライブに挿入して、[続行]ボタンを
クリックしてください。
通報開局ＦＤが未到着の場合、[終了]ボタンをクリックして、セットアップを終了してください。通報開局ＦＤが到着してから再度セットアップを実施してください。

[重要] 通報開局ＦＤの読み込みに失敗すると、以下のダイアログボックスが表示されます。

このダイアログボックスが表示された原因として次のことが考えられます。
－セットされているフロッピィディスクドライブの指定が異なる
－フロッピィディスクドライブに正しくセットされていない
－フロッピィディスクの内容が不正である

いったん「通報開局フロッピィディスク」を取り出して、正しくセットし直した後、フロッピィディスクドライブを正しく指定して[再度確認]ボタンをクリックしてください。それでも同じダイアログボックスが表示されたときは、[終了]ボタンをクリックして終了してください。その後に「通報開局フロッピィディスク」が正しいかどうか最寄りの販売サービス拠点へお問い合わせください。

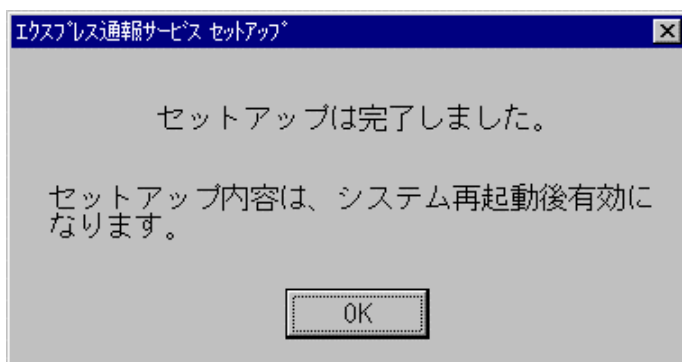
[重要]　「通報開局フロッピィディスク」を契約されたサーバ以外で使用すると以下のダイアログボックスが表示されます。

正しい「通報開局フロッピィディスク」があるときは、[終了]ボタンをクリックしていったん終了した後、正しい「通報開局フロッピィディスク」を使用してセットアップをしてください。
契約後にサーバ名称を変更したときは、[続行]ボタンをクリックしてください。

１０）[続行]ボタンをクリックする。
エクスプレス通報サービスユーティリティが起動します。ユーティリティの詳細な使用方法は「2.6 エクスプレス通報サービスの設定ユーティリティ」、またはヘルプを参照願います。

エクスプレス通報サービス

１１）[次へ]ボタンをクリックして、登録内容を確認する。

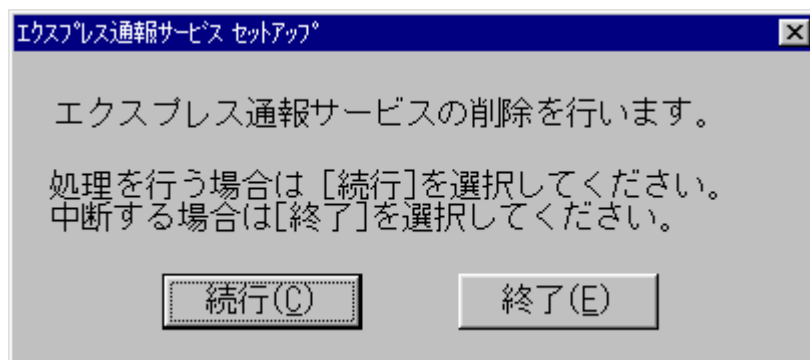
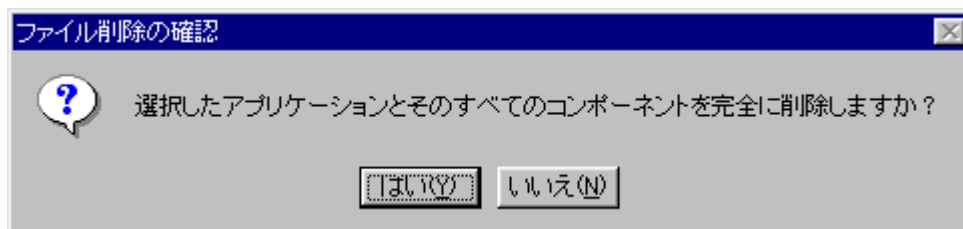
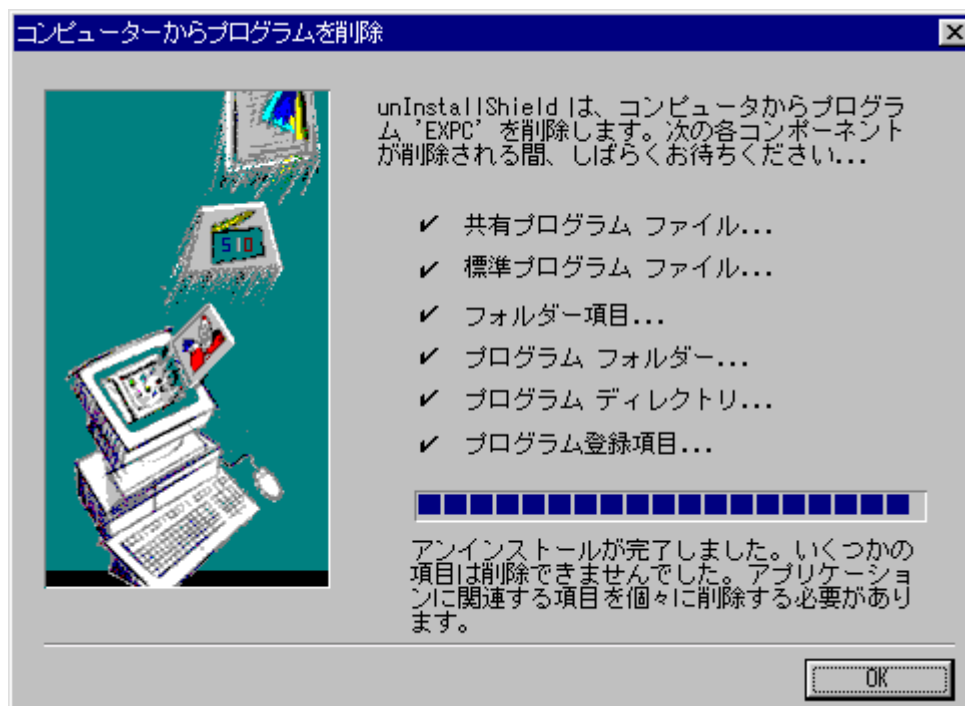
画面に表示される「通報開局フロッピィディスク」の設定内容を確認してください。
設定内容が異なるときや未設定項目があるときは設定内容を変更してください。

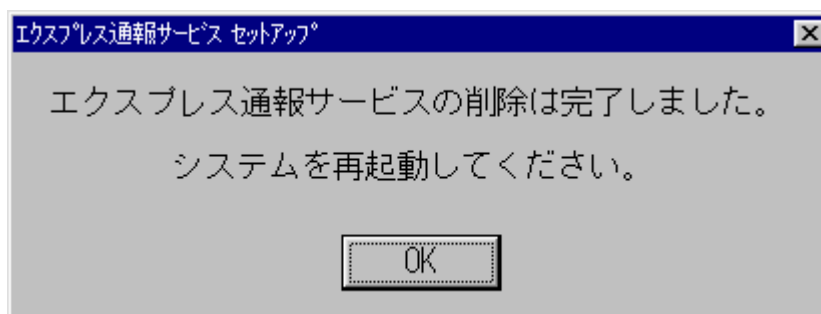
１２）全ての内容を確認したら、[完了]ボタンをクリックする。

１３）　[OK]ボタンをクリックする。

１４）システムを再起動する。
エクスプレス通報サービスの機能は、システム再起動後有効になります。

2.2 エクスプレス通報サービスの削除

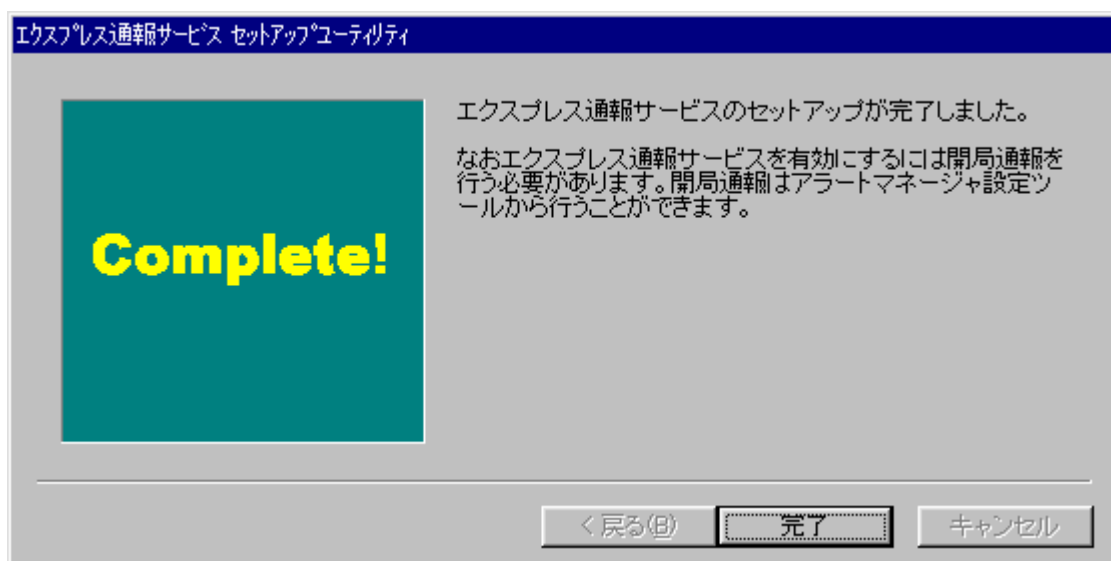
エクスプレス通報サービスの削除を行う場合は、以下の手順に従ってください。

1）CD-ROM媒体を、CD-ROMドライブに挿入します。
2）統合セットアップを起動します。
3）[関連ユーティリティのメニューへ]を選択してください。
[関連ユーティリティメニュー]が表示されます。
4）[エクスプレス通報サービス]を選択してください。以下の[エクスプレス通報サービス]を削除する確認ダイアログボックスが表示されます。

5） [続行]ボタンを選択、削除を実行してください。
PC通報連携がインストールされていると、以下のダイアログが表示されます。

6）「はい」ボタンをクリックしてPC通報連携を削除してください。
PC通報連携の削除が完了すると、以下のダイアログが表示されます。

7）「OK」ボタンをクリックして、削除を続行してください。
以下のダイアログボックスが表示されます。

8）以下の削除終了のダイアログボックスが表示されたら、[OK]ボタンをクリックして終了してください。

2.3 BTOでのセットアップ方法

BTO(Build To Order)で既にエクスプレス通報サービスをインストールされている場合にエクスプレス通報サービスを有効にする場合は、以下の手順に従ってください。

1）「コントロールパネル」を起動します。
2）「ESMPRO/ServerAgent」のアイコンをダブルクリックします。
3）アラートマネージャの設定ツールが起動します。「ツール」、「エクスプレス通報サービス」、「サーバ」を選択します。
4）エクスプレス通報サービスセットアップユーティリティが起動します。通報開局FDをフロッピーディスクドライブに挿入して「次へ」ボタンをクリックしてください。

5）正常に通報開局FDを読み取れますと、以下のダイアログが表示されます。「完了」ボタンをクリックしてください。

６）エクスプレス通報サービス設定ユーティリティが起動しますので、通報開局FDの内容を確認してください。
７）エクスプレス通報サービス設定ユーティリティで通報開局FDの内容確認後、エクスプレス通報サービスは有効になります。

2.4 BTOでの削除

エクスプレス通報サービスの削除と方法が同じです。そちらを参照してください。

2.5 エクスプレス通報サービスのマネージャ転送のセットアップ

マネージャ経由エクスプレス通報のマネージャ側にはESMPRO/ServerManagerおよび、ESMPRO/ServerManagerにESMPRO/AlertManager Ver3.3以降をインストールすると有効になります。インストールの手順は該当するセットアップカードをご参照ください。

2.6 エクスプレス通報サービスの設定ユーティリティ

エクスプレス通報サービスの設定ユーティリティは、インストール時に通報開局ＦＤの内容を確認するために利用します。またインストール後も設定内容の変更やサービスの終了に利用します。
インストール後は、アラートマネージャ設定ツールの[ﾂｰﾙ]メニューの[ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報ｻｰﾋﾞｽ]-[ｻｰﾊﾞ]を選択して設定を行ってください。

1）最初の画面ではエクスプレス通報サービスの適用期間を延長させる[サービス有効期限の変更]ボタン、サービス開始後にサービスの終了を行う[サービスの終了]ボタンがあります。詳しくは、「2.10 エクスプレス通報サービスの終了」を参照してください。

[次へ]ボタンをクリックすると、お客様情報の設定画面が表示されます。

2）お客様に関する情報を入力します。各項目のエディットボックスをマウスでクリックすると、設定画面下部にガイドメッセージを表示しますので参考にしてください(これは以降の画面でも同様です)。お客様が個人の場合、部署名と担当者名は入力できません。

[次へ]ボタンをクリックすると、サーバ本体情報の設定画面が表示されます。

エクスプレス通報サービスの設定

お客様名称(カナ) (M): ﾆﾁﾃﾞﾝ太郎ｳ
お客様名称(漢字) (A): 日電太郎
部署名 (P):
お客様郵便番号 (Z): 183
住所(カナ) (D): ﾄｳｷｮｳﾄ ﾌﾁｭｳｼ ﾆｯｼﾝﾁｮｳ1-10
住所(漢字) (R): 東京都府中市日新町1-10
住所(詳細) (E):
お客様電話番号 (T): (0123)45-6789
お客様メールアドレス (L): aaa@bbb.co.jp
担当者名(カナ) (C):
担当者名(漢字) (G):
ユーザシステムコード (U) : 0123456789
説明 :

お客様属性
個人 (I)
法人 (O)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

3）サーバ本体に関する情報を入力します。装置コードは一覧から選択できますが、一覧にない場合は入力が可能です。

[次へ]ボタンをクリックすると、オプション装置情報の設定画面が表示されます。

4）オプション装置情報を入力します。[追加]ボタンをクリックすると、装置情報を追加できます。
リストから装置を選択して[削除]ボタンをクリックすると、その装置情報を削除します。
[次へ]ボタンをクリックすると、オプション装置情報の設定画面が表示されます。

5）本体を購入した販売店情報を入力します。販売店名は一覧から選択できますが、一覧にない場合は入力が可能です。

[完了]ボタンをクリックすると、本ユーティリティを終了します。

エクスプレス通報サービスの設定

販売店名 (D)： 日本電気(株)

担当営業所属 (S)：

担当営業氏名 (A)：

担当営業電話番号 (P)：

担当SE所属 (E)：

担当SE氏名 (M)：

担当SE電話番号 (O)：

説明： 販売店の名称を選択して下さい。一覧に無い場合は入力して下さい。

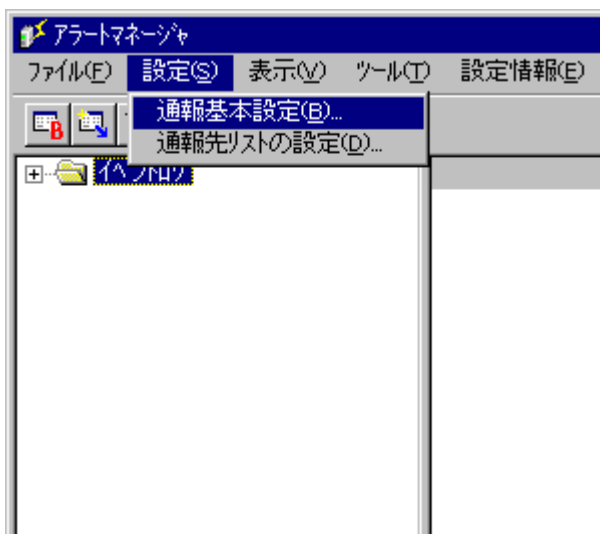
< 戻る(B)　完了　キャンセル

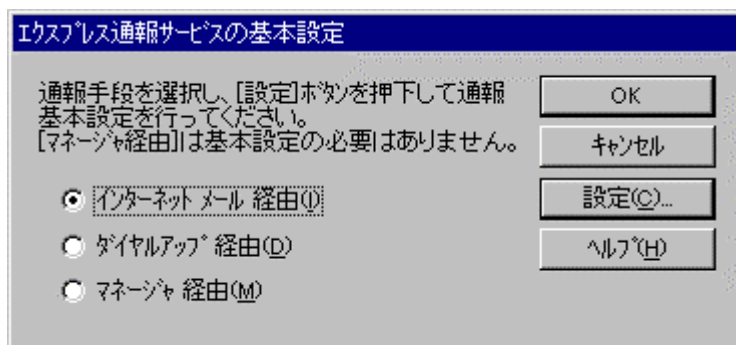
2.7　電子メール経由エクスプレス通報の設定

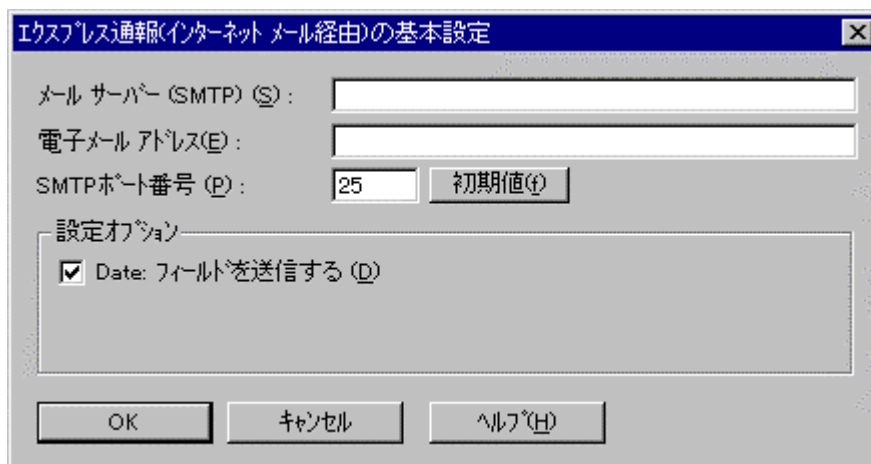
電子メールを利用してエクスプレス通報サービスを行う場合は、以下の設定手順に従ってインターネット メール通報の設定を行ってください。

1）コントロールパネルのESMPRO/ServerAgentのアイコンをダブルクリックします。

2）[全般設定]プロパティから[通報設定]ボタンをクリックします。

3）アラートマネージャの[設定]メニューから[通報基本設定]を選択します。

4）[通報手段の設定]プロパティの通報手段リストから[ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報ｻｰﾋﾞｽ]を選択し、[設定]ボタンをクリックします。

5）[ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報ｻｰﾋﾞｽの基本設定]ダイアログボックスが表示されます。

6）[ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ ﾒｰﾙ経由]を選択して、[設定]ボタンをクリックします。

7）[ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報(ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ ﾒｰﾙ経由)]ダイアログボックスが表示されます。

8）ＳＭＴＰが動作しているメールサーバのホスト名またはＩＰアドレスを入力します。たとえば、Zzz.Com または 255.255.255.255のように入力します。

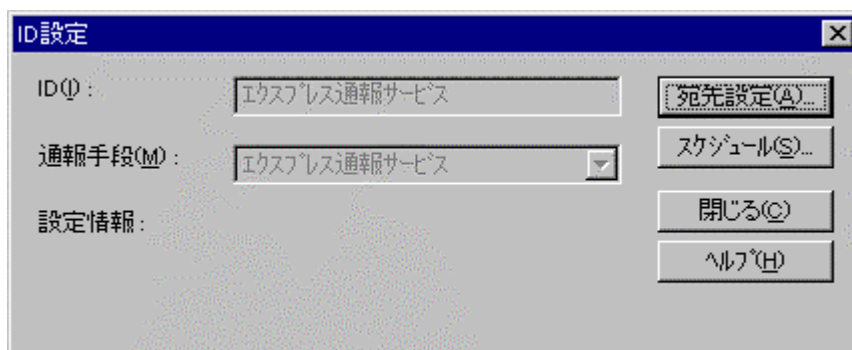
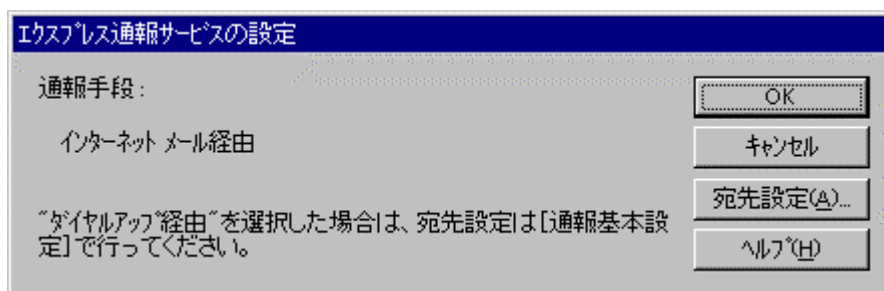
9）自分（送信者）のメールボックスの電子メールアドレスを指定してください。たとえば、abc@Zcc.Comのように入力します。

１０）[OK]ボタンをクリックして[ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報ｻｰﾋﾞｽの基本設定]ダイアログボックスに戻ります。[ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報ｻｰﾋﾞｽの基本設定]ダイアログボックスで[OK]ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。

１１）アラートマネージャの[設定]メニューから[通報先ﾘｽﾄの設定]を選択します。

エクスプレス通報サービス

１２）IDリストからｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報ｻｰﾋﾞｽを選択して、[修正...]ボタンをクリックします。

１３）[ID設定]ダイアログボックスが表示されます。[宛先設定...]ボタンをクリックします。

１４）[ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報ｻｰﾋﾞｽの設定]ダイアログボックスが表示されます。

１５）[宛先設定]ボタンをクリックします。[ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報ｻｰﾋﾞｽ(ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ ﾒｰﾙ経由)の設定]ダイアログボックスが表示されます。

１６）宛先と設定情報を確認します。宛先は通報開局ＦＤに設定されているメールアドレスを表示していますので、問題がない場合は変更しないでください。

１７）エクスプレス通報サービスの設定情報を変更したい場合、[設定情報の変更...]ボタンをクリックします。インストール時の確認で使用したエクスプレス通報サービスの設定ユーティリティが起動されますので設定変更を行ってください。
設定を完了すると[ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報の設定]ダイアログボックスに戻ります。

１８）[ﾃｽﾄ通報]ボタンをクリックしてテスト通報を確認します。

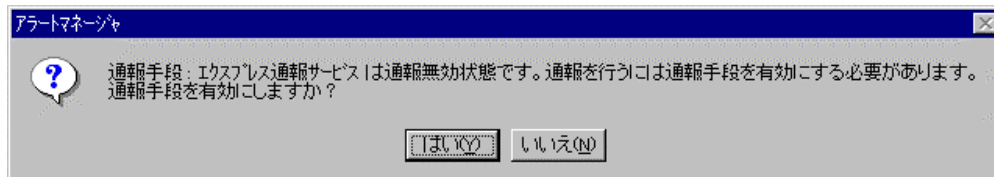
１９）テスト通報の結果送付先を選択して、[OK]ボタンをクリックします。

２０）確認メッセージが表示されますので、[OK]ボタンをクリックするとテスト通報します。
<u>テスト通報完了後は、指定した結果送付先へのメールまたはファクシミリの到着をお待ちください。テスト通報結果を確認した後で、開局通報を行ってください。</u>

２１）[開局通報]ボタンをクリックして開局通報を確認します。([開局通報]ボタンは、テスト通報完了後にクリック可能となります。)
開局通報が完了した時点でエクスプレス通報サービスが開始されます。

２２）[OK]ボタンをクリックして[ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報(ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ ﾒｰﾙ経由)の設定]ダイアログボックスを閉じます。[OK]ボタンをクリックして[ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報ｻｰﾋﾞｽの設定]ダイアログボックスを閉じます。

２３）[ID設定]ダイアログボックスで、[ｽｹｼﾞｭｰﾙ...]ボタンをクリックして、通報リトライの設定、通報時間帯の設定を行います。
初期値は、5分間隔で72時間後までのリトライ、24時間通報可能になっています。
この値は推奨値ですから、特に問題がなければ変更しないでください。
設定を終えたら[OK]ボタンをクリックします。

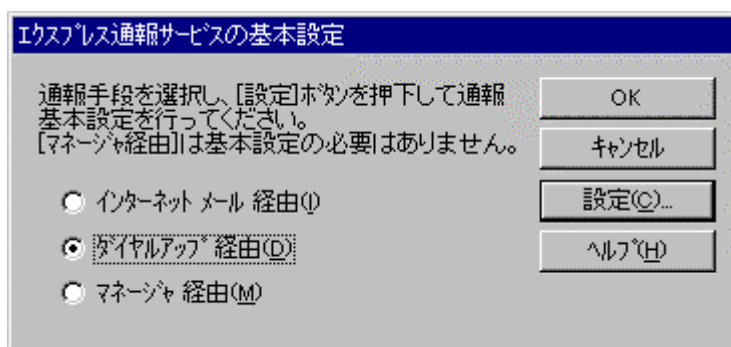
２４）通報手段を有効にするかどうか確認のメッセージボックスが表示されますので、[はい]ボタンをクリックしてください。

[いいえ]をクリックしてしまった場合はアラートマネージャの[通報基本設定]を選択し、[通報手段の設定]プロパティの通報手段リストにある[ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報ｻｰﾋﾞｽ]の通報有効/無効ビットマップを有効(緑色)にしてください。

以上で、電子メール経由エクスプレス通報ができるようになります。
アラート通報機能の設定は、『ServerAgent ヘルプ』および、『アラートマネージャ ヘルプ』を参照してください。

2.8 ダイヤルアップ経由エクスプレス通報の設定

モデムを利用したダイヤルアップを利用してエクスプレス通報サービスを開始するための設定手順についてご説明します。

1） コントロールパネルのESMPRO/ServerAgentのアイコンをダブルクリックします。
2） [全般設定]プロパティから[通報設定]ボタンをクリックします。
3） エクスプレス通報サービスの設定情報を変更したい場合、アラートマネージャの[ﾂｰﾙ]メニューの[ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報ｻｰﾋﾞｽ]を選択します。インストール時の確認で使用したエクスプレス通報サービスの設定ユーティリティが起動されますので設定変更を行ってください。
4） アラートマネージャの[設定]メニューから[通報基本設定]を選択します。
5） [通報手段の設定]プロパティの通報手段リストから[ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報ｻｰﾋﾞｽ]を選択して、[設定...]ボタンをクリックします。

6） [ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報ｻｰﾋﾞｽの基本設定]ダイアログボックスが表示されます。

7） [ﾀﾞｲﾔﾙｱｯﾌﾟ経由]を選択して、[設定]ボタンをクリックします。

８） [ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報(ﾀﾞｲﾔﾙｱｯﾌﾟ経由)]ダイアログボックスが表示されます。

９） [情報設定...]ボタンをクリックします。ユーザＩＤ(ユーザシステムコード)を確認し、必要であれば通報コメントを入力してください。本体NvRAMが搭載されている機種の場合、[NvRAM情報参照]ボタンをクリックしてオフライン保守ユーティリティの設定を参照することができます。[OK]ボタンをクリックすると[ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報(ﾀﾞｲﾔﾙｱｯﾌﾟ経由)の設定]ダイアログボックスに戻ります。

１０） 通報方法でシリアルポートを選択して、[通報先設定]ボタンをクリックします。

１１） シリアルポートを選択した場合、以下のダイアログボックスを表示します。電話番号(一次)は通報開局ＦＤに設定されている電話番号を表示していますので、問題がない場合は変更しないでください。

１２） モデムが接続されているシリアルポートやモデムの設定を行います。本体NvRAMが搭載されている機種の場合、[NvRAM情報参照]ボタンをクリックしてオフライン保守ユーティリティの設定を参照することができます。[OK]ボタンをクリックすると[ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報の設定]ダイアログボックスに戻ります。

１３） [ﾃｽﾄ通報]ボタンをクリックしてテスト通報を確認します。

１４） 確認メッセージが表示されますので、[OK]ボタンをクリックするとテスト通報します。

１５） [開局通報]ボタンをクリックして開局通報を確認します。([開局通報]ボタンは、テスト通報完了後にクリック可能となります。)
　開局通報が完了した時点でサービスが開始されます。

１６） [OK]ボタンをクリックして[ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報ｻｰﾋﾞｽの基本設定]ダイアログボックスに戻ります。そして[OK]ボタンをクリックしてアラートマネージャの[通報手段の設定]プロパティに戻ります。

１７） [通報手段の設定]プロパティの通報手段リストにある[ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報ｻｰﾋﾞｽ]の通報有効/無効ビットマップを有効(緑色)にして[通報基本設定]ダイアログボックスを閉じます。

　以上で、ダイヤルアップ経由エクスプレス通報ができるようになります。
アラート通報機能の設定は、『ServerAgent ヘルプ』および、『アラートマネージャ ヘルプ』を参照してください。

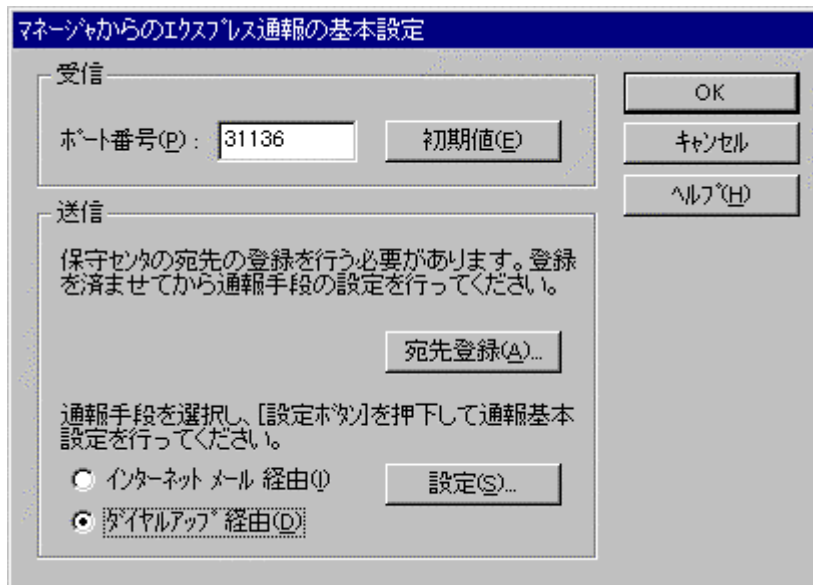
2.9 マネージャ経由エクスプレス通報の設定

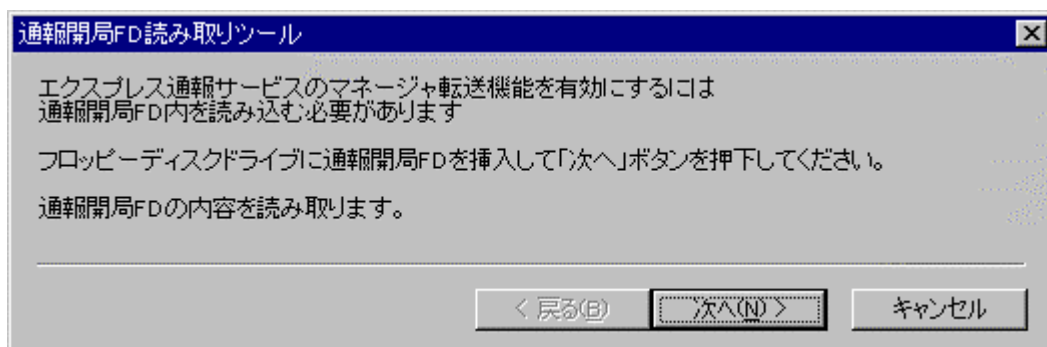
マネージャを経由して、マネージャから電子メールまたはモデムを使用したダイヤルアップを利用してエクスプレス通報サービスを開始するための設定手順についてご説明します。
マネージャ経由エクスプレス通報を行う場合は、まずマネージャの設定を行いマネージャから電子メールまたはダイヤルアップによるテスト通報（到達確認通報）が正常に行われることを確認した後にエージェントの設定を行ってください。

2.9.1 マネージャの設定 － ダイヤルアップ経由

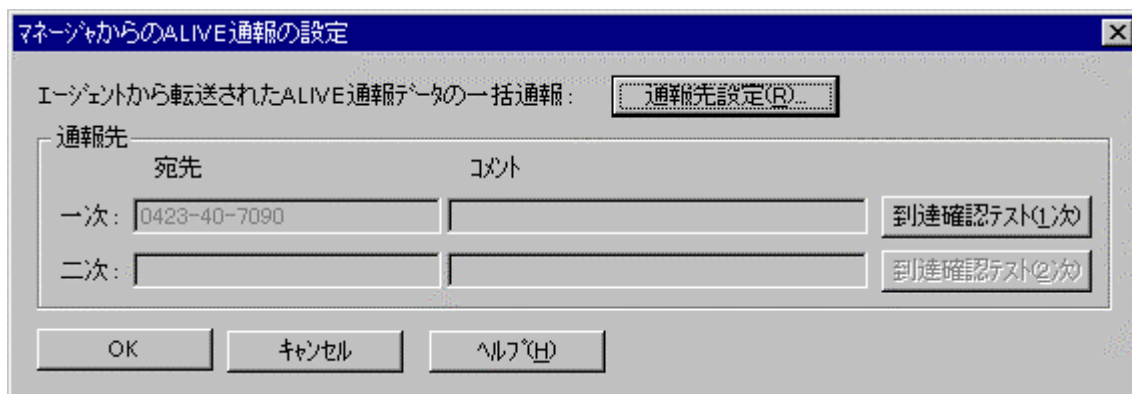
マネージャからモデムを使用したダイヤルアップを利用してエクスプレス通報サービスを開始するための設定手順についてご説明します。

1） アラートビューアの[ﾂｰﾙ]メニューから[通報の設定]を選択すると、アラートマネージャが起動されます。
2） アラートマネージャの[設定]メニューから[通報基本設定]を選択します。
3） [通報手段の設定]プロパティの通報手段リストから[ﾏﾈｰｼﾞｬからのｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報]を選択して、[設定...]ボタンをクリックします。

4） [ﾏﾈｰｼﾞｬからのｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報の基本設定]ダイアログボックスが表示されます。

5） エージェントとのソケット間通信に使用するポート番号を指定します。初期値は31136です。通常、初期値に問題がない限り設定を変更しないでください。変更する場合はエージェントでも同一のポート番号を指定してください。

6） 保守センタへの宛先の登録を行います。[宛先登録]ボタンをクリックすると[通報開局FD読み取りツール]が起動します。

7） 通報開局ＦＤをフロッピードライブに挿入し、[次へ]ボタンをクリックすると通報開局ＦＤの読み取りが開始されます。読み取りが終了後[完了]ボタンをクリックして[通報開局FD読み取りツール]を終了します。

8） [ﾏﾈｰｼﾞｬからのｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報]ダイアログボックスにおいて、通報手段として[ﾀﾞｲﾔﾙｱｯﾌﾟ経由]を選択して、[設定]ボタンを押します。

９）　[ﾏﾈｰｼﾞｬからのｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報(ﾀﾞｲﾔﾙｱｯﾌﾟ経由)の設定]ダイアログボックスが表示されます。

１０）　[通報先設定]ボタンをクリックします。
１１）　[通報先の設定(ｼﾘｱﾙﾎﾟｰﾄ経由)]ダイアログボックスが表示されます。電話番号(一次)は通報開局ＦＤに設定されている電話番号を表示していますので、問題がない場合は変更しないでください。

通報先の設定(シリアルポート経由)
NvRAM 情報参照
通報先
電話番号
コメント
一次(1)：
(0123)45-6789
二次(2)：
シリアルポートの設定
シリアルポート(S)：
COM1
リモートアクセスサービスとポートを共有する(R)
リダイヤル間隔(D)：
60
秒
ダイヤルモード：
パルス(P)
トーン(T)
OK
キャンセル
ヘルプ(H)

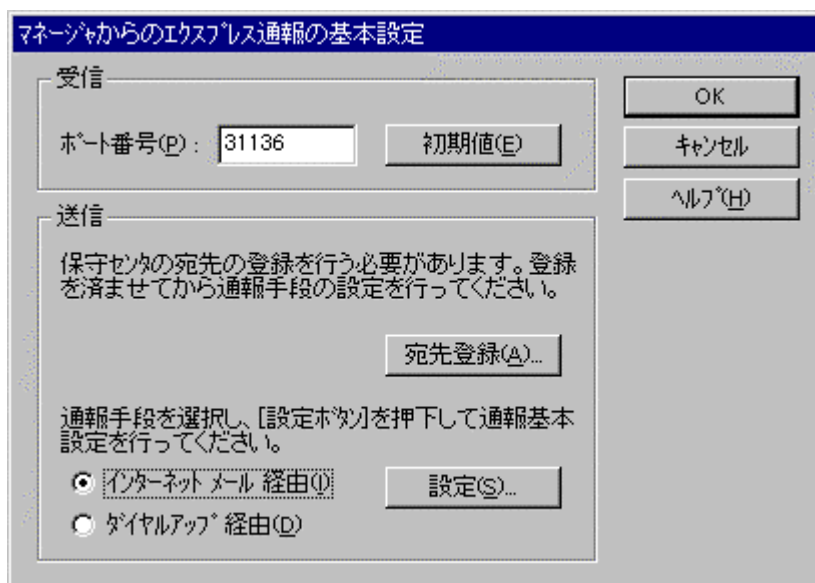
１２）　モデムが接続されているシリアルポートやモデムの設定を行います。[OK]ボタンをクリックすると[ﾏﾈｰｼﾞｬからのｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報(ﾀﾞｲﾔﾙｱｯﾌﾟ経由)の設定]ダイアログボックスに戻ります。
１３）　[到達確認ﾃｽﾄ(1次)]ボタンをクリックしてテスト通報を確認します。
１４）　確認メッセージが表示されるので、[OK]ボタンをクリックするとテスト通報をします。
１５）　テスト通報が正常に終了したら[OK]ボタンをクリックして[ﾏﾈｰｼﾞｬからのｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報の基本設定]ダイアログボックスに戻ります。
１６）　[OK]ボタンをクリックして[ﾏﾈｰｼﾞｬからのｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報の基本設定]ダイアログボックスを閉じます。
１７）　[通報手段の設定]プロパティの通報手段リストにある[ﾏﾈｰｼﾞｬからのｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報]の通報有効/無効ビットマップを有効（緑色）にします。

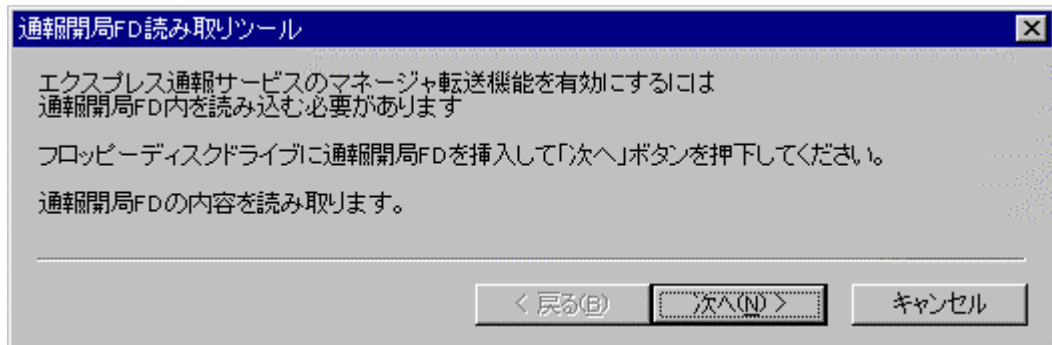
以上で、マネージャ経由エクスプレス通報のマネージャ側の設定は完了しました。次にエージェントでマネージャ経由エクスプレス通報の設定を行ってください。

2.9.2　マネージャの設定 － インターネット メール経由

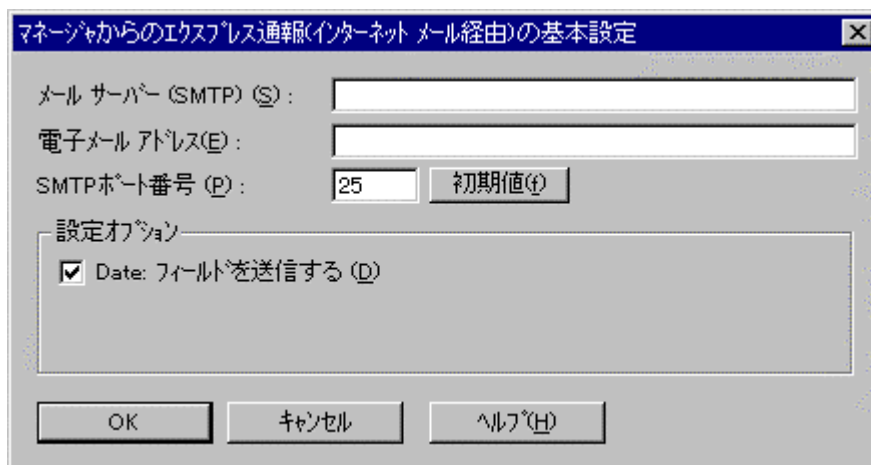
マネージャから電子メールを利用してエクスプレス通報サービスを開始するための設定手順についてご説明します。

1）　アラートビューアの[ﾂｰﾙ]メニューから[通報の設定]を選択すると、アラートマネージャが起動されます。
2）　アラートマネージャの[設定]メニューから[通報基本設定]を選択します。
3）　[通報手段の設定]プロパティの通報手段リストから[ﾏﾈｰｼﾞｬからのｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報]を選択して、[設定...]ボタンをクリックします。

4）　[ﾏﾈｰｼﾞｬからのｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報]ダイアログボックスが表示されます。

5） エージェントとのソケット間通信に使用するポート番号を指定します。初期値は31136です。通常、初期値に問題がない限り設定を変更しないでください。変更する場合はエージェントでも同一のポート番号を指定してください。

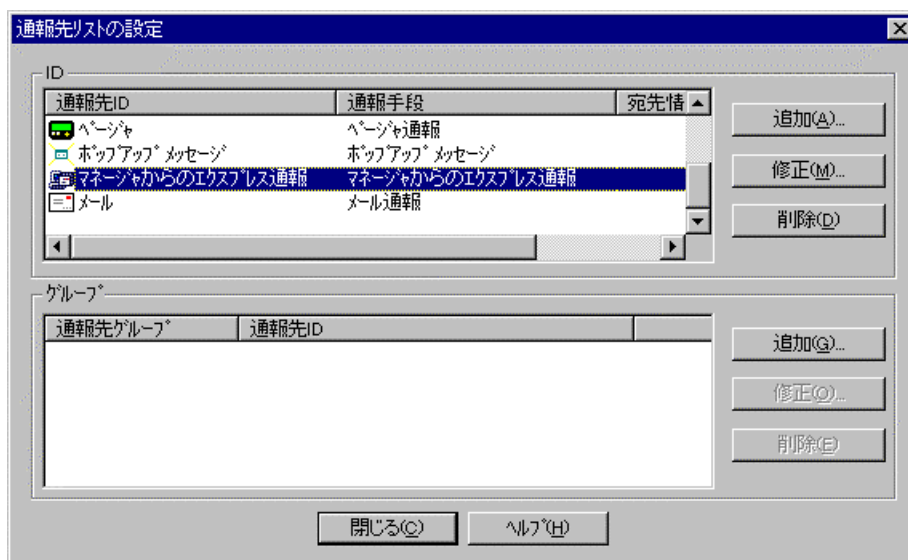
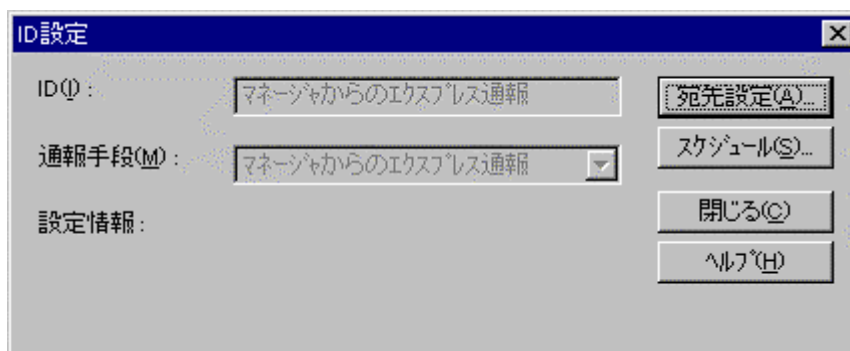
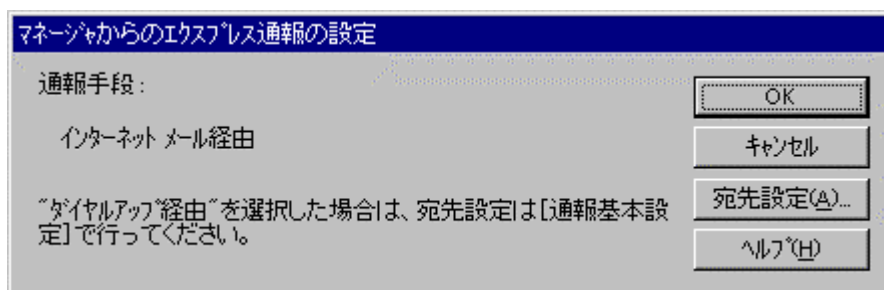
6） 保守センタへの宛先の登録を行います。[宛先登録]ボタンをクリックすると、[通報開局FD読み取りツール]が起動します。

7） 通報開局ＦＤをフロッピードライブに挿入し、[次へ]ボタンをクリックすると、通報開局FDの読み取りが開始されます。読み取り終了後[完了]ボタンをクリックして[通報開局FD読み取りツール]を終了します。

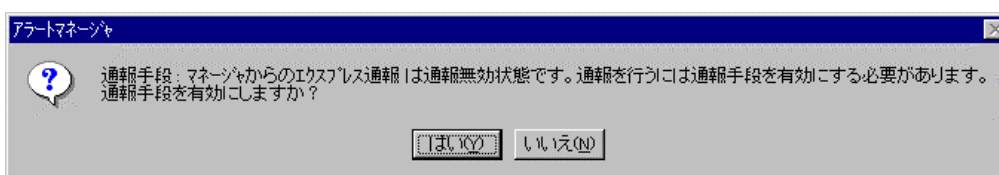
8） [ﾏﾈｰｼﾞｬからのｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報]ダイアログボックスにおいて、通報手段として[ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ ﾒｰﾙ経由]を選択して、[設定]ボタンを押します。

9） [ﾏﾈｰｼﾞｬからのｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報(ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ ﾒｰﾙ経由)の基本設定]ダイアログボックスが表示されます。

１０） ＳＭＴＰが動作しているメールサーバのホスト名またはＩＰアドレスを入力します。たとえば、Zzz.Com または 255.255.255.255のように入力します。

１１） 自分（送信者）のメールボックスの電子メールアドレスを指定します。
たとえば、abc@Zzz.Comのように入力します。

１２） [OK]ボタンをクリックすると[ﾏﾈｰｼﾞｬからのｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報の基本設定]ダイアログボックスに戻ります。[ﾏﾈｰｼﾞｬからのｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報の基本設定]ダイアログボックスで[OK]ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。

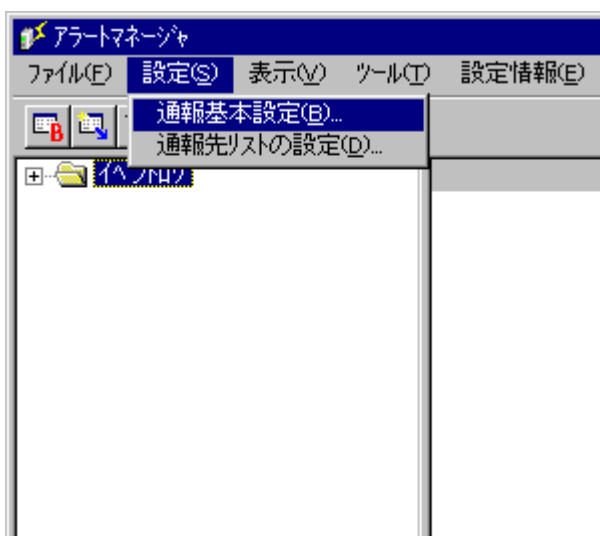
１３） アラートマネージャの[設定]メニューから[通報先ﾘｽﾄの設定]を選択します。
１４） IDリストから[ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報ｻｰﾋﾞｽを選択して、[修正...]ボタンをクリックします。

１５） [ID設定]ダイアログボックスが表示されます。[宛先設定...]ボタンをクリックします。

１６） [ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報ｻｰﾋﾞｽの設定]ダイアログボックスが表示されます。

１７） [宛先設定]ボタンをクリックすると[ﾏﾈｰｼﾞｬからのｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報 (ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ ﾒｰﾙ経由)の設定]ダイアログボックスが表示されます。

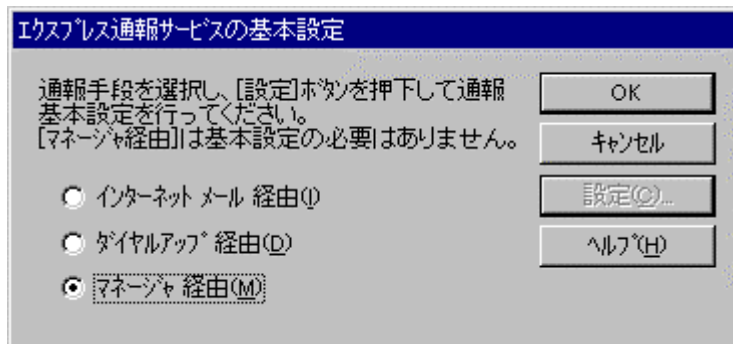
１８） 宛先を確認します。宛先は通報開局ＦＤに設定されているメールアドレスを表示していますので、問題がない場合は変更しないでください。
１９） [送信ﾃｽﾄ]ボタンをクリックしてメール到達確認をします。
２０） [OK]ボタンをクリックして[ﾏﾈｰｼﾞｬからのｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報(ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ ﾒｰﾙ経由)の設定]ダイアログボックスを閉じます。[ﾏﾈｰｼﾞｬからのｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報]ダイアログボックスにおいて[OK]ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。
２１） [ID設定]ダイアログボックスで、[ｽｹｼﾞｭｰﾙ...]ボタンをクリックして、通報リトライの設定、通報時間帯の設定を行います。
初期値は、5分間隔で72時間後までのリトライ、24時間通報可能になっています。
この値は推奨値ですから、特に問題がなければ変更しないでください。
設定を終えたら[OK]ボタンをクリックします。
２２） 通報手段を有効にするかどうか確認のメッセージボックスが表示されますので、[はい]を選択してください。

[いいえ]をクリックしてしまった場合、アラートマネージャの[通報基本設定]を選択し、[通報手段の設定]プロパティの通報手段リストにある[ﾏﾈｰｼﾞｬからのｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報]の通報有効/無効ビットマップを有効(緑色)にしてください。

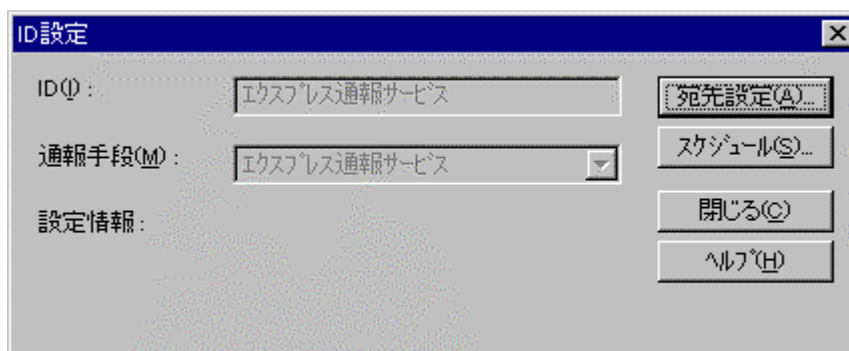
以上で、マネージャ経由エクスプレス通報のマネージャ側の設定は完了しました。次にエージェントでマネージャ経由エクスプレス通報の設定を行ってください。

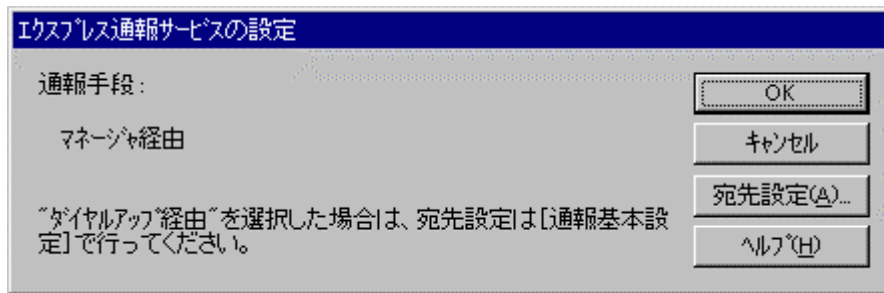
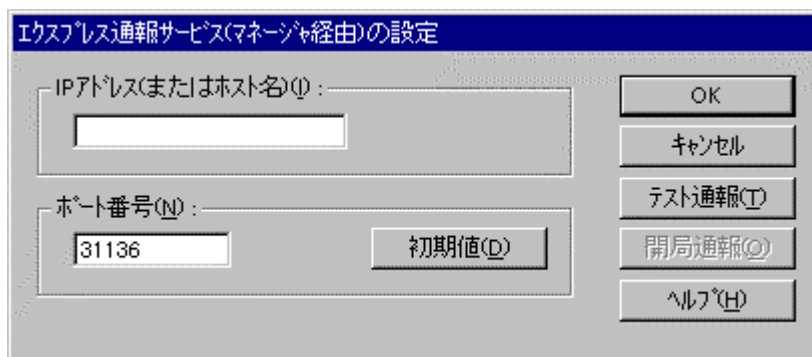
2.9.3　エージェントの設定

マネージャを経由してエクスプレス通報を行う場合のエージェントでの設定手順についてご説明します。

1）　コントロールパネルのESMPRO/ServerAgentのアイコンをダブルクリックします。
2）　[全般設定]プロパティから[通報設定]ボタンをクリックするとアラートマネージャが起動します。
3）　アラートマネージャの[設定]メニューから[通報基本設定]を選択します。

4）　[通報手段の設定]プロパティの通報手段リストから[ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報ｻｰﾋﾞｽ]を選択し、[設定]ボタンをクリックします。

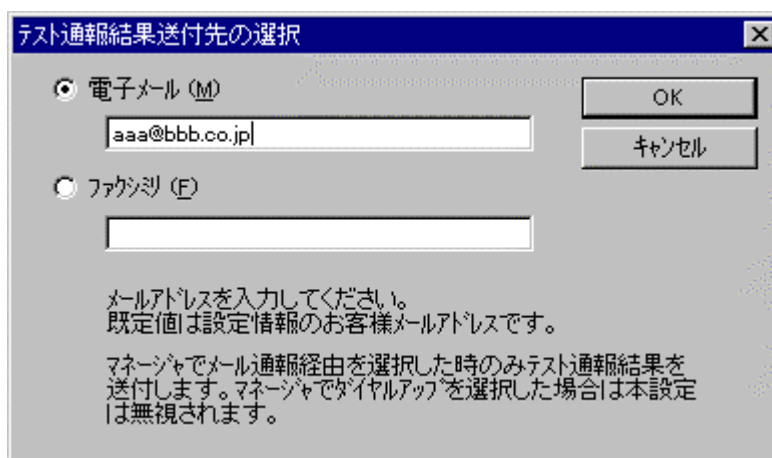
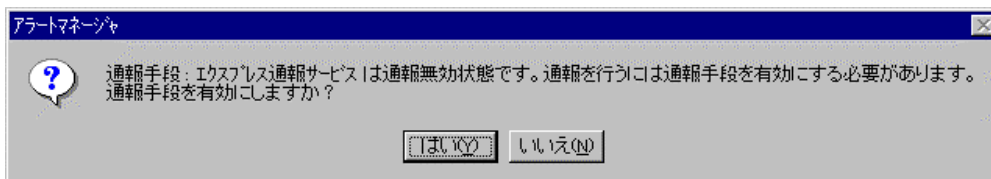
５） [ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報ｻｰﾋﾞｽの基本設定]ダイアログボックスが表示されます。

６） [ﾏﾈｰｼﾞｬ 経由]を選択して[OK]ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。
７） [通報基本設定]ダイアログボックスで[OK]ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。
８） アラートマネージャの[設定]メニューから[通報先ﾘｽﾄの設定]を選択します。
９） IDリストからｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報ｻｰﾋﾞｽを選択して、[修正...]ボタンをクリックします。

１０） [ID設定]ダイアログボックスが表示されます。[宛先設定...]ボタンをクリックします。

エクスプレス通報サービス

１１） [ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報ｻｰﾋﾞｽの設定]ダイアログボックスが表示されます。

１２） [宛先設定]ボタンをクリックすると[ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報ｻｰﾋﾞｽ(ﾏﾈｰｼﾞｬ経由)の設定]ダイアログボックスが表示されます。

１３） 経由するマネージャのIPアドレスまたはホスト名を入力します。
IPアドレスは、255.255.255.255のように入力します。

１４） マネージャとのソケット間通信に使用するポート番号を指定します。初期値は31136です。通常、初期値に問題がない限り設定を変更しないでください。変更する場合はマネージャでも同一のポート番号を指定してください。

１５） [ﾃｽﾄ通報]ボタンをクリックしてテスト通報を確認します。

１６） テスト通報の結果送付先を選択して、[OK]ボタンをクリックします。

１７） 確認メッセージが表示されますので、[OK]ボタンをクリックするとテスト通報をします。
マネージャからのｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報の通報手段として[ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ ﾒｰﾙ経由]を選択している場合、テスト通報完了後指定した結果送付先へのﾒｰﾙまたはファクシミリの到着をお待ちください。テスト通報結果を確認した後で、開局通報を行ってください。マネージャでﾀﾞｲﾔﾙｱｯﾌﾟ経由が選択されている場合は、テスト結果は送付されません。
１８） [開局通報]ボタンをクリックして開局通報を確認します。([開局通報]ボタンは、テスト通報完了後にクリック可能となります。)
開局通報が完了した時点でエクスプレス通報サービスが開始されます。
１９） [OK]ボタンをクリックして[ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報ｻｰﾋﾞｽ(ﾏﾈｰｼﾞｬ転送)の設定]ダイアログボックスを閉じます。[ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報ｻｰﾋﾞｽの設定]ダイアログボックスで[OK]ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。
２０） [ID設定]ダイアログボックスで、[ｽｹｼﾞｭｰﾙ...]ボタンをクリックして、通報リトライの設定、通報時間帯の設定を行います。
初期値は、5分間隔で72時間後までのリトライ、24時間通報可能になっています。
この値は推奨値ですから、特に問題がなければ変更しないでください。
設定を終えたら[OK]ボタンを押します。
２１） 通報手段を有効にするかどうか確認のメッセージボックスが表示されますので、[はい]をクリックしてください。

[いいえ]をクリックしてしまった場合、アラートマネージャの[通報基本設定]を選択し、[通報手段の設定]プロパティの通報手段リストにある[ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報ｻｰﾋﾞｽ]の通報有効/無効ビットマップを有効(緑色)にしてください。

以上で、マネージャ経由エクスプレス通報ができるようになります。
アラート通報機能の設定は、『ServerAgent ヘルプ』および、『アラートマネージャ ヘルプ』を参照してください。

2.10 エクスプレス通報サービスの終了

エクスプレス通報サービスを開始すると、設定ユーティリティの[ｻｰﾋﾞｽの終了]ボタンをクリック可能となります。契約期間終了後にもかかわらず[サービスの終了]を実行していない場合、通報が行われ続けるため課金上問題となります。そのため契約更新しない場合は、速やかにサービスを終了させてください。

エクスプレス通報サービスを終了する場合は、[サービスの終了]ボタンをクリックしてください。
これ以降、アラート通知は行われなくなります。
エクスプレス通報サービスが終了すると、画面左下にエクスプレス通報が終了している旨のメッセージが表示され、[サービス有効期限の変更]ボタンがクリック可能となります。
　　ｻｰﾋﾞｽの有効期限　：　ｻｰﾋﾞｽは終了しています。
サービスを再開するためには、[サービス有効期限の変更]ボタンをクリックして期限延長キーを入力してください。期間延長キーは契約更新を行うと入手できます。

3 クライアント監視機能のセットアップ方法

3.1 セットアップに必要な契約

セットアップを行うには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

1）クライアント装置のH/W保守契約
クライアント装置のH/W保守契約がお済みの場合、無料でサービスをご利用いただけます。
契約内容の詳細については、購入された販売店にお問い合わせください。

2）通報開局FD
クライアント装置のH/W保守契約がお済みの場合、無料でサービスをご利用いただけます。
契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

3.2 セットアップの方法

通常のエクスプレス通報サービスのセットアップ方法に従ってインストールを行えばクライアント監視機能のセットアップも行います。
エクスプレス通報サービスの設定については、「2 セットアップの方法」を参照してください。

3.3 クライアントへのDMITOOLのインストール

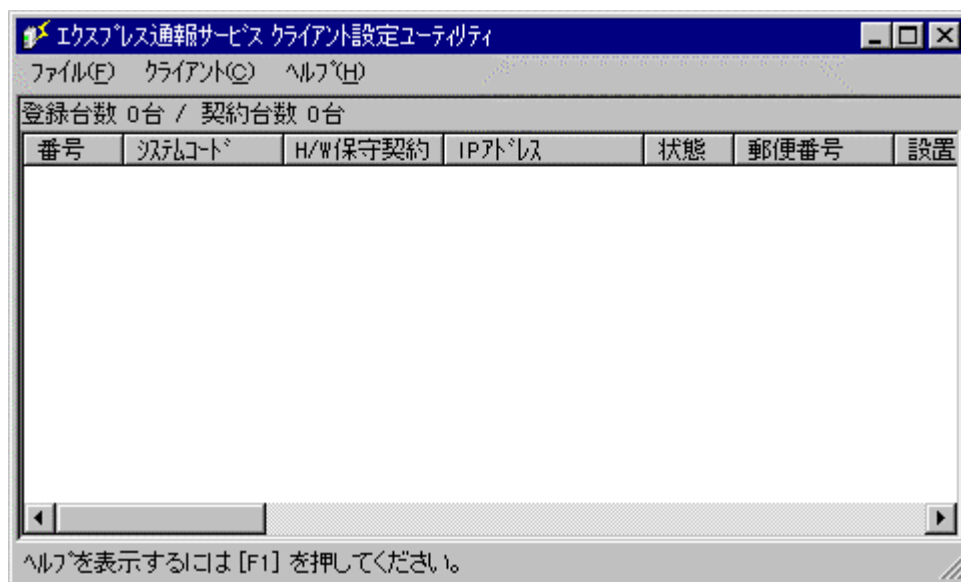
設定ユーティリティでエクスプレス通報サービスクライアント監視機能の設定を行う前に、クライアント装置にDMITOOLがインストールされている必要があります。お客様のお持ちのクライアントにバージョン5.0以前のDMITOOLがインストールされている場合、バージョン5.1以上のDMITOOLにアップデートする必要があります。
DMITOOLのアップデートについては、CD-ROM媒体の次のディレクトリに格納してあるセットアップカードを参照してください。
　ESMPRO\I386\AMEXP\ExPC\Document
　- DMI_UP.RTF ：クライアント側システム監視サービス(DMITOOL) アップデート手順書

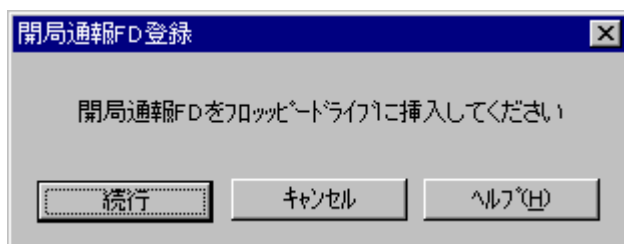
特にH/W保守契約があるクライアントについては、バージョン5.1のDMITOOLのインストールを完了した状態で電源をONにして設定ユーティリティを起動してください。これは、設定ユーティリティの初回起動時にH/W保守契約があるクライアントの設定を行う必要があるからです。
DMITOOLのインストール・アップデートに関しては、オンラインマニュアル等を参照してください。

3.4 エクスプレス通報サービス クライアント設定ユーティリティ

エクスプレス通報サービス クライアント設定ユーティリティでは、クライアント監視機能に関する設定を行います。
設定を行う前に次のことをご確認ください。

- サーバとクライアントがネットワークで物理的につながっていることを確認してください。
- H/W保守契約があるクライアントにバージョン5.1のDMITOOLがインストールされていて、電源がONになっていることを確認してください。

アラートマネージャ設定ツールの[ﾂｰﾙ]メニューの[ｴｸｽﾌﾟﾚｽ通報ｻｰﾋﾞｽ]-[ｸﾗｲｱﾝﾄ]を選択して設定を行ってください。
次の図は、設定ユーティリティを起動した画面です。初期状態ではクライアントは一台も登録されていません。

3.4.1 開局通報FDの読み込みとクライアントの追加

お客様が最初に行う作業は、「開局通報FDの読み込み」です。［ファイル］メニューの［開局通報FDの読み込み］を選択してください。

お手元にお持ちの開局通報FDをフロッピードライブに挿入して［続行］をクリックしてください。読み込み作業を続けます。

エクスプレス通報サービス

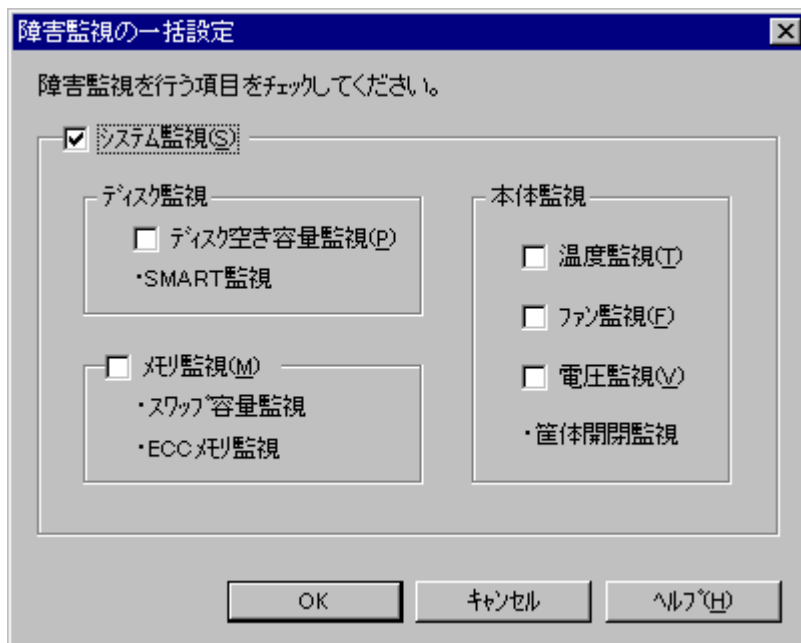
開局通報FDに登録されているH/W保守契約を結ばれたクライアントが表示されます（次の図は例です。お客さんの契約によって、画面に表示される情報は異なります）。
お客様がクライアントをコンピュータ名で管理するか、IPアドレスで管理するかによって左から4列目に表示される情報が変わります。

例の画面では、お客様は、クライアント5台分の保守契約をされていて、そのうち2台とH/W保守契約を結ばれています。H/W保守契約を結んでいない3台分については、お客様で自由に登録・削除することができます。
登録されていない契約分については、行をマウスなどで選択後、［クライアント］メニューの［クライアントの追加］を選んでください。クライアントをコンピュータ名で管理している場合、コンピュータ名を、IPアドレスで管理している場合、IPアドレスを入力してください。コンピュータ名・IPアドレスは一意的に定まっている必要があります。また、登録するクライアントには、バージョン5.1のDMITOOLがインストールされていて電源がONになっている必要があります。

3.4.2　構成情報の設定

登録したクライアントについての情報を変更するには、画面でクライアントを選択後、［クライアント］メニューの［構成情報の設定］を選んでください。
H/W保守契約があるクライアントかお客様が入力したクライアントかによって変更できる項目が異なります。編集用のボックスが白い項目だけが変更可能です。

3.4.3　障害情報の一括設定

クライアントにどのような障害が起こったときに通報するかを変更することができます。
［クライアント］メニューの［障害通報の一括設定］を選んでください。

システム監視のチェックボックスのチェックが無い場合、通報はしません。システム監視のチェックボックスのチェックをした場合のみ通報を行います。
システム監視にチェックをした時に他のチェックを一切していなくてもディスクSMART監視と筐体開閉監視を行います。
メモリ監視にチェックをした場合、スワップ容量監視とECCメモリ監視の２つを行います。
［OK］ボタンをクリックすると設定を始めます。登録されていて電源がONになっているすべてのクライアントに設定を行うため数分以上かかる場合があります。

3.4.4　クライアントの削除

お客様が登録されたクライアントは登録の削除をすることができます。画面でクライアントを選択後、［クライアント］メニューの［クライアントの削除］を選んでください。

3.5 クライアント監視機能のアンインストール

クライアント監視機能のみのアンインストールは行えません。エクスプレス通報サービスをアンインストールしてください。

4 注意事項

4.1 削除時のご注意

エージェント(ESMPRO/ServerAgent)を削除する前にエクスプレス通報サービスを削除してください。

4.2 モデム

ダイヤルアップ経由エクスプレス通報で使用するモデムについては、NECフィールディング（株）にご相談ください。

4.3 クライアント監視機能

クライアントの動作（未動作・動作中）は、エクスプレス通報サービスクライアント設定ユーティリティ起動時に行います。クライアントの動作状況の変更をされた場合、一度設定ユーティリティを終了して再起動してください。

クライアントにバージョン5.1以上のDMITOOLがインストールされていてことを確認してください。以前のバージョンをお使いの場合はアップデートしてください。